

高等学校における教科指導の充実

国 語 科

新学習指導要領への対応  
— 言語活動の充実（1） —

栃木県総合教育センター  
平成22年3月

# ま え が き

総合教育センターでは、基礎・基本の確実な定着を図る教科指導の在り方について研究するとともに、その成果を普及することで生徒の学力の向上に資することを目的に、平成17年度より、「高等学校における教科指導の充実に関する調査研究」に取り組んでいます。

近年の教育課程実施状況調査や学力に関する国際的な調査では、日本の児童生徒の学力の状況や学習に対する意識などが明らかにされ、文部科学省等からも学力向上のための様々な対策が打ち出されたり提言がなされたりしています。平成19年12月に公表された、OECD生徒の学習到達度調査（PISA2006年）では、科学的リテラシーをはじめ、数学的リテラシー、読解力のそれぞれについて問題点が指摘されています。平成20年12月には、国際教育到達度評価学会（IEA）が行った国際数学・理科教育動向調査の2007年調査（TIMSS2007）の結果が公表され、学力低下に歯止めがかかったという分析がある一方で、パターン化された指導の弊害とも見られる結果も一部に見られ、思考力の育成に課題があることも指摘されています。

これらの調査の分析結果を踏まえて、中央教育審議会答申で改善の方向性が示され、平成21年3月には、高等学校の新学習指導要領が告示されました。数学と理科が平成24年度から、国語、地理歴史、公民、外国語が平成25年度から学年進行で実施されます。今回の改訂の主な改善事項として、「言語活動の充実」、「理数教育の充実」が示されました。これらは、先に挙げた各種調査で、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題、知識・技能を活用する問題に課題が見られたことなどに対する改善策でもあります。

今年度の調査研究においては、新学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえるとともに、各種調査の結果から指摘されている課題の解決を図るための授業改善について、国語科、地理歴史科、数学科、理科、外国語科（英語）の各教科で取り組みました。調査研究を進めるにあたり、御協力いただきました研究協力委員の方々に、深く感謝申し上げます。

今後、研究の成果をまとめた本冊子を有効に御活用いただければ幸いです。

平成22年3月

栃木県総合教育センター所長

瓦 井 千 尋

# 目 次

はじめに	
1 調査研究の背景	1
2 国語科における新学習指導要領への対応	3
事例1 相互評価を生かして小論文を書く	6
事例2 「臨江之麩 <sup>び</sup> 」を基にした創作活動を通して、人間、社会に対する思想的確にとらえる	15
事例3 「八代集」から兼好法師好みの和歌を見つける	21
おわりに	33
参考資料 高等学校国語科の学習指導要領に示された言語活動例の新旧対照表	35

※本資料は、栃木県総合教育センターのホームページ「とちぎ学びの杜」内、「調査研究」と「教材研究のひろば」のコーナーにも掲載しています。

「とちぎ学びの杜」 <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>

## はじめに

### 1 調査研究の背景

平成21年3月9日に、新しい高等学校学習指導要領が告示された。今回の改訂のポイントとして、次のように、**言語活動の充実、学習習慣の確立**が挙げられる。

＜高等学校学習指導要領 第1章 総則（抜粋）＞

第1款 1 学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

第5款 5 教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項

(1) 各教科・科目等の指導に当たっては、生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること。

新学習指導要領の改訂に際しては、「OECD生徒の学習到達度調査（PISA調査）」や、文部科学省が小学校第6学年と中学校第3学年を対象に行った「全国学力・学習状況調査」など、各種の調査から明らかにされた、次のような課題が反映されている。

- ①思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題（無答率が高い）が見られる。
- ②読解力で成績分布の分散が拡大（成績中位層が減り、低位層が増加）している。
- ③家庭での学習時間の減少など、学習意欲、学習習慣・生活習慣に課題が見られる。
- ④自分への自信の欠如や自らの将来への不安、体力の低下といった課題が見られる。

特に、教科の指導においては、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させること、知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成することが重視されている。その実現のためには、「習得・活用・探究」のバランスを取った学習活動の展開が重要である。このことについて、新学習指導要領には、改訂の基本方針として次のように述べられている。

＜高等学校学習指導要領解説 第1章 総説 第2節 改訂の基本方針（抜粋）＞

②知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること。

確かな学力を育成するためには、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐ

くむことの双方が重要であり、これらのバランスを重視する必要がある。

このため、各教科において基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視するとともに、観察・実験やレポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動を充実すること、さらに総合的な学習の時間を中心として行われる、教科等の枠を超えた横断的・総合的な課題について各教科等で習得した知識・技能を相互に関連付けながら解決するといった探究活動の質的な充実を図ることなどにより思考力・判断力・表現力等を育成することとしている。

また、これらの学習を通じて、その基盤となるのは言語に関する能力であり、国語科のみならず、各教科等においてその育成を重視している。さらに、学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、家庭との連携を図りながら、学習習慣を確立することを重視している。

なお、学習指導要領の改訂に先立って発表された中央教育審議会答申には、言語に関する能力を育成するための、各教科における言語活動として、以下のような具体例が示されている。

<平成20年1月中央教育審議会答申（抜粋）>

- ・観察・実験や社会見学のレポート作成において、視点を明確にして、観察したり見学したりした事象の差異点や共通点をとらえて記録・報告する。（理・社）
- ・比較や分類、関連付けといった考えるための技法、帰納的な考え方や演繹的な考え方などを活用して説明する。（数・理）
- ・仮説を立てて観察・実験を行い、その結果を評価し、まとめて表現する。（理）
- ・体験活動を振り返り、そこから学んだことを記述し、まとめたものを発表し合う。（特別活動・総合的な学習の時間）
- ・討論・討議などにより意見の異なる人を説得したり、協同的に議論して集団としての意見をまとめたりする。（特別活動・総合的な学習の時間）

これらのことから、学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえるとともに、各種調査等から指摘されている課題について、その解決を図るための教科指導の工夫改善を目指して調査研究に取り組んだ。3回の調査研究委員会を通して、評価の観点を踏まえた教科指導の在り方について、各教科ごとに研究協議を行った。本書はそれらの取組について、授業実践を中心に報告するものである。

---

※本冊子の中では、平成11年3月に告示された学習指導要領を「現行の学習指導要領」、平成21年3月に告示された学習指導要領を「新学習指導要領」として記す。

## 2 国語科における新学習指導要領への対応

平成20年3月に告示された学習指導要領（以下「新学習指導要領」と称す）は、平成25年度入学生から年次進行で実施する。今回の改訂においては、教育内容の主な改善事項として、「言語活動の充実」が示され、「国語をはじめ各教科等で批評、論述、討論などの学習を充実」することが求められている。国語科では、各教科等の言語活動の基本ともなる、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力を、発達の段階に応じて培う必要がある。また、その他、国語科に関する主な改善事項としては、「伝統や文化に関する教育の充実」が示され、「古典に関する学習を充実」することが求められている。

### 国語科改訂の要点

新学習指導要領の国語の主な内容は、次のとおりである。

#### (1) 国語科の目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

高等学校国語では、今回の改訂においても言語の教育としての立場を重視し、社会人として生きるために必要とされる国語の能力の基礎を身に付けるという基本的な理念を継承している。したがって、教科の目標については、小学校及び中学校との系統性を重視するため、**想像力を伸ばすことについての記述を新たに加えている**ほかは、これまでと同様である。

#### (2) 高等学校国語科の改善に関する具体的事項

- 中学校までに培われた国語の能力を更に伸ばし、社会人として必要とされる国語の能力の基礎を身に付けることができるようにするとともに、生徒一人一人の能力・適性、興味・関心に応じた多様な学習が行われるよう、各科目の構成及び内容を次のように改善する。
  - (ア) 「**国語総合**」は、現行の「国語総合」の内容を改善したものとする。実社会で活用できる国語の能力を身に付けるため、話すこと・聞くこと、書くこと及び読むことの学習が総合的に行われるよう、内容を改善する。

その際、特に、文章や資料等を的確に理解し、論理的に考え、話したり書いたりする能力を育成することや、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度の育成を通して、感性や情緒をはぐくむことを重視する。
  - (イ) 「**国語表現**」は、現行の「国語表現Ⅰ」及び「国語表現Ⅱ」の内容を再構成したものとする。「国語総合」の学習を踏まえ、文章や資料等を的確に理解し、論理的に考え、適切に話したり書いたりする力など、実社会で活用することのできる表現の能力を確実に育成するとともに、進んで表現する意欲や現代の国語の向上を図る態度をはぐくむようにする。
  - (ウ) 「**現代文A**」は、近代以降の文章を対象とし「古典A」と対をなす科目として新設する。「国語総合」の学習を踏まえ、生涯にわたって日常的に読書に親しむ態度をはぐくむ。関連して、言語生活の在り方、言語の役割、国語の特質等についても指導し、我が国の言語文化に対する理解ができるようにする。
  - (エ) 「**現代文B**」は、現行の「現代文」の内容を改善したものとする。「国語総合」の学習

を踏まえ、近代以降の様々な種類の文章や資料を教材として取り上げ、話すこと・聞くこと、書くこと及び読むことの言語活動を通して、読む能力のみならず、読んだことをもとにして考え、判断・評価し、それをまとめて論理的に表現する能力を育成するとともに、文字・活字文化に対する理解が深まるようにする。

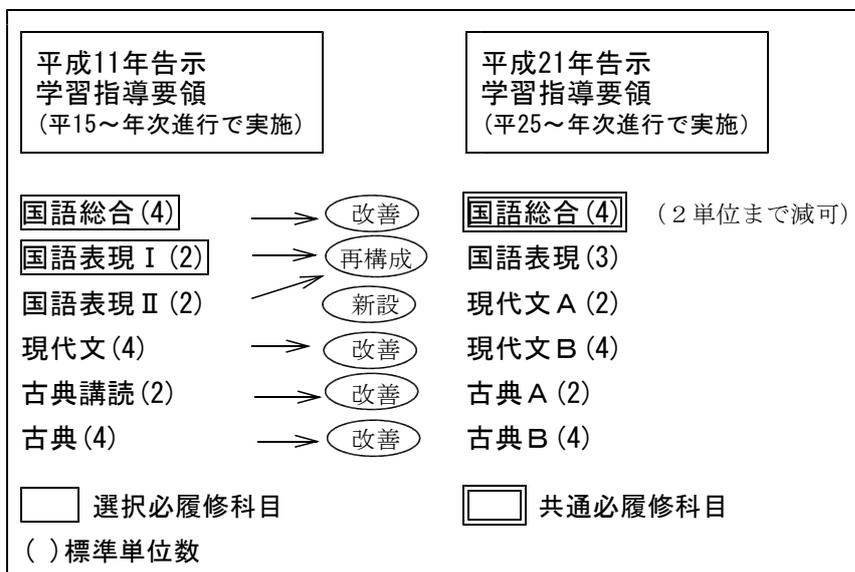
(イ) 「**古典A**」は、現行の「**古典講読**」の内容を改善したものとする。「**国語総合**」の学習を踏まえ、古典の原文（近代以降の文語調の文章を含む）のみならず、古典についての解説文や小説、随筆なども教材として幅広く取り上げ、古典の世界に親しむ態度をはぐくむ。関連して、言語の役割、国語の成り立ちや特質についても指導し、我が国の言語文化に対する理解ができるようにする。

(ロ) 「**古典B**」は、現行の「**古典**」の内容を改善したものとする。「**国語総合**」の学習を踏まえ、古典の原文や、古典についての評論文などを教材として取り上げ、話すこと・聞くこと、書くこと及び読むことの言語活動を通して、系統的に古典に接することができるようにし、古典に対する関心と知識を高め、古典を読む能力を育成する。

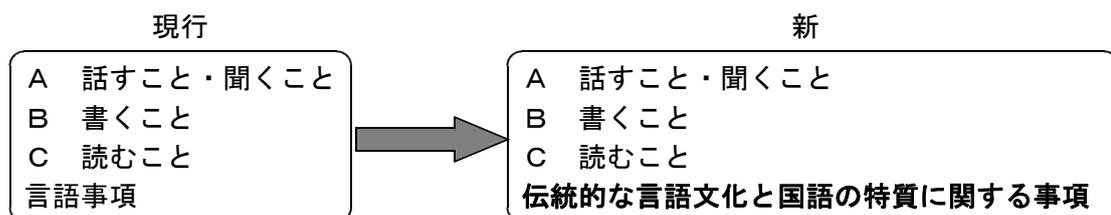
### (3) 科目構成の改善

これまで「**国語表現 I**」及び「**国語総合**」を選択必履修科目としていたものが改められ、「**国語総合**」が共通必履修科目となった。表現に関する科目が1科目となったのは、「**国語総合**」との関係を整理し再構成したためである。また、これまでも2科目で構成されていた古典に関する科目に加え、現代文に関する科目も2科目となったのは、生徒の多様性に対応するとともに、言語文化についての指導を重視するためである。

科目構成の改善について図示すると、次のようになる。



### (4) 内容の改善



(5) 各科目において指導すべき事項（「国語総合」の領域等との関連）

国語総合	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
国語表現	（話すこと・聞くこと）	（書くこと）		（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
現代文A			（読むこと）	（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
現代文B	（話すこと・聞くこと）	（書くこと）	（読むこと）	（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
古典A			（読むこと）	（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
古典B			（読むこと）	（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

（太線は、その科目において、より指導の中心となるものを示している。）

**本調査研究について**

本調査研究では、新学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、研究協力委員が勤務校で担当する各科目において、言語活動の工夫を取り入れた指導の改善に取り組んだ。各事例は、現行の学習指導要領の各科目における実践であるが、新学習指導要領の指導事項や言語活動例を踏まえて実践したものである。なお、学習指導要領に示された言語活動例については、巻末に参考資料として掲載した。

**事例1 相互評価を生かして小論文を書く**

フィンランドの教育メソッドを参考に、グループによる相互評価を生かし、学び合いを通して小論文を書く。

**事例2 「臨江之麁」を基にした創作活動を通して、人間、社会に対する思想を的確にとらえる**  
漢文の寓話の内容と自分の生活や現代の状況との共通点を考え、自分の言葉で物語を創作する活動を通して、人間像や思想を読み取る。

**事例3 「八代集」から兼好法師好みの和歌を見つける**

「徒然草」の「花は盛りに」に表された兼好の美意識に見合う和歌を、グループごとに分担して「八代集」から探し、話し合いと発表を通して学び合う。

**<研究協力委員>**

栃木県立今市高等学校	教諭	氏家史乃
栃木県立上三川高等学校	教諭	澤村茂樹
栃木県立足利女子高等学校	教諭	新井聖美

**<研究委員>**

栃木県総合教育センター 研究調査部 副主幹 吉澤正光

## 事例 1

# 相互評価を生かして小論文を書く

### 1 育成を目指す言語能力

論理的な文章を読んで関心をもったことについて自分の考えを書くという言語能力を育成する。新学習指導要領の「現代文B」の指導事項「ウ 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。」や、「エ 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現すること。」を指導の中心に取り上げる。そして、「表現効果を吟味して自己評価や相互評価を行い、それを自分の文章の推敲に役立てている。」という評価規準を中心にして評価する。また、言語活動例の「エ 文章を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりすること。」を参考にして設定した、「相互評価を生かして小論文を推敲する」という言語活動を通して、前述した能力を育成する。

評論文を読む指導においては、テキストを読んで「解釈」することに指導が偏りがちである。特に、生徒にとってテキストの難易度が高い場合、生徒はその内容に関心をもったり、自分自身の問題として主体的に考えたりするまでには至らない。一方、教師は、内容を咀嚼して解説する指導に陥りやすい。その結果、生徒は授業に対して受け身になってしまう。そこで、生徒がテキストの内容に関心を持ち、積極的にテキストに関わる指導を工夫した。ここでは、小論文を書くことに指導を重点化し、そのためにテキストを読むこととした。また、作品の表現効果について自己評価や相互評価を行わせ、それらを生かして文章を推敲するという言語活動を取り入れた。

### 2 学習活動の概要

(1) 単元名 「メディアは何を変えるのか?—インターネットやケータイ」(杉本 卓)

#### (2) 単元の目標

- ①論理的な文章を読んで関心をもったことについて自分の考えを文章にまとめようとする。  
(関心・意欲・態度)
- ②書くための発想を広げたり情報を整理したりして、自分の考えを文章にまとめる。(書く能力)
- ③表現効果を吟味して自己評価や相互評価を行い、それを自分の文章の推敲に役立てる。  
(書く能力)
- ④小論文を書くために必要な考察の型や論理的な文章展開の型を理解する。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

#### (3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
①論理的な文章を読んで関心をもったことや自分の考えを文章にまとめようとしている。	①書くための発想を広げたり情報を整理したりして、自分の考えを文章にまとめている。 ②表現効果を吟味して自己評価や相互評価を行い、それを自分の文章の推敲に役立てている。	①小論文を書くために必要な考察の型や論理的な文章展開の型を理解している。

(4) 指導と評価の計画(6時間)

時間	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1 2	<p>本文の内容に関心をもって課題を設定する</p> <p>(1) 本文を黙読し、印象に残った文を抜き出す。 (学習活動その1)資料1</p> <p>(2) 本文を黙読し、「学習活動その1」で抜き出した文の中から、最も興味・関心をもった文を一つ選ぶ。 (学習活動その2)資料1</p> <p>(3) 「学習活動その2」で選んだ文の内容と自分との関わりについて説明する文を書く。 (学習活動その3)資料1</p>	<p>○必要に応じて繰り返し読ませる。</p> <p>○複数の文を抜き出させる。</p> <p>○書き方の例を示す。</p>	<p>書く能力① (ワークシート資料1への記述の確認)</p>
3 4	<p>小論文を書く</p> <p>(1) 小論文の型を知る。</p> <p>(2) インターネットを使って情報収集する。</p> <p>(3) 小論文を書く。</p> <p>(4) 小論文を自己評価する。</p>	<p>○副教材を使用して、小論文の書き方についていくつかの型を示す。</p> <p>○コンピュータ室を利用する。</p> <p>○自分の文章を客観的な視点から評価させる。</p>	<p>書く能力① 言語文化と国語の特質① (ワークシート資料2への記述の確認)</p>
5 6	<p>自己評価や相互評価を生かして小論文を推敲する</p> <p>(1) 4～5人のグループで小論文を回覧し、他者の小論文について、「ほめてあげたい点」と「改善へのアドバイス」を、二色の付箋に書き分けて指摘する。</p> <p>(2) 自己評価や相互評価を生かして小論文を推敲する。</p> <p>(3) 推敲した小論文について自己評価する。</p>	<p>○小論文は生徒の名前を記号化して伏せた上で、コピーしたものを配布する。</p> <p>○遠慮なく指摘できるように、付箋には無記名で指摘事項を記入させる。</p> <p>○他者の指摘を見て影響されないように、記入済みの付箋は回覧終了後に貼る。</p> <p>○単元全体の学習活動に対する感想も記入させる。</p>	<p>書く能力② 言語文化と国語の特質① (ワークシートへの記述の確認)</p>

※「関心・意欲・態度」は単元全体を通して評価する。

3 評価の例

ここでは、生徒の自己評価「よく書けたと思う点」及び「改善が必要な点」と、相互評価「ほめてあげたい点」及び「改善へのアドバイス」をもとに、指導の成果を振り返ってみる。

### 自己評価「よく書けたと思う点」

- ・具体例・実例を挙げている。
- ・漢字を多く使った。
- ・理由が書けた。
- ・伝えたいと思ったことは書けた。
- ・体験談を入れて書けた。
- ・自分なりに考えて書けた。
- ・考えを発展することができた。
- ・序論・本論・結論の構成で書けた。

### 自己評価「改善が必要な点」

- ・言いたいことや伝えたいことが言葉にできない。
- ・同じことを繰り返してしまった。
- ・無理に文を伸ばしてしまった。
- ・まとめ方がわからない。
- ・テーマに合っていない。
- ・言葉が足りない。
- ・言い回しが不適切。
- ・何が言いたいのかわからない。
- ・指示語を使えばよかった。
- ・読点をうちすぎて、文が細切れ。
- ・同じ言葉を使い過ぎ。
- ・まとまっていない。
- ・具体例がない。
- ・字が汚い。
- ・表現が変。
- ・くどい。
- ・起承転結が減茶苦茶。
- ・段落変えのポイントがわからない。

### 相互評価「ほめてあげたい点」

- ・自分の意見をはっきり述べている。
- ・内容が興味深い。
- ・小論文的な書き方だ。
- ・体験談が書かれていてよい。
- ・起承転結ができています。
- ・終わり方がまとまっている。
- ・字がていねいで読みやすい。
- ・言葉の使い方が上手。
- ・漢字がきちんと書けている。
- ・キーワードに「」がついているのがいい。
- ・話の流れがスムーズ。
- ・意見と理由をはっきりしている。
- ・まとまっている。
- ・わかりやすい。
- ・具体例が挙げられていてわかりやすい。
- ・序論・本論・結論がしっかりしている。
- ・反対意見にも触れているのがよい。
- ・言い回し、歯切れがよい。
- ・頭がよさそうな書き方。
- ・着眼点が良い。
- ・一文一文の量が適切。

### 相互評価「改善へのアドバイス」

- ・字を大きく、濃く、丁寧に。
- ・読めない字がある。
- ・「、」が少ない。
- ・「、」が多い。
- ・自分の意見をもっと書くべき。
- ・「思う」が多い。
- ・誤字、脱字がある。
- ・同じこと、同じ言葉を繰り返さない方がよい。
- ・まとまっていない。
- ・逆説の接続詞の使い方が不適切。
- ・論点がずれている。
- ・原稿用紙の使い方が間違っている。
- ・「です・ます」と「だ・である」が混じっている。
- ・一文が長い。
- ・不必要な文がある。
- ・段落がない。
- ・改行したほうがよい。
- ・段落を分け過ぎ。
- ・わかりにくい。
- ・何が言いたいのかわからない。
- ・慣用句の使い方が間違っている。
- ・反対意見にも触れた方がよい。
- ・ひらがなが多過ぎる。
- ・主語述語が変なところがある。
- ・説明で終わっている。
- ・話し言葉が混じっている。
- ・「なぜなら～からである」の言い回しができていない。
- ・文字稼ぎに必死なのではないか。

最後に、友人からのアドバイスを踏まえて小論文を推敲した後の自己評価（感想）を示す。

推敲後の自己評価（感想）
<ul style="list-style-type: none"><li>・指摘された部分の全部は直せなかったけれども、前回よりは上手く書けたと思う。自分ではわからなかったところを指摘してもらえたので、これからの参考にしたい。</li><li>・最初、みんなのアドバイスを読んで傷ついた。でも、みんなのアドバイスを取り入れてみると、自分でも前より良く書けたのがわかった。だから、そういうことをふまえて、よりよい文章を書けるようにしたい。</li><li>・普段誰かに作品を見せて、それを評価してもらうことなどなかったのが、自分の文の悪いところがよくわかって良かった。（お世辞かもしれないが）よい方のコメントが嬉しかった。</li><li>・読んでくれた人からのアドバイスを見て、「なるほど」と思ったことがたくさんあった。自分でわかっていたこともわからなかったことも、しっかり意識して書き直せたと思う。</li><li>・ほめられてみて、いい部分はそのまま生かし、直した方がいいところを注意したら、前よりよくなったと思う。指摘されると、自分の悪いところがあるので助かった。</li><li>・他人の意見があると、とても書きやすくなる。「うまく書けている所がある」と書いてもらうことによって、自分に自信がつく。</li></ul>

ほとんどの生徒が、相互評価で指摘を受けた「改善へのアドバイス」を、自己評価で「改善が必要な点」として挙げたことを推敲に生かしていた。「書く能力」「知識・理解」については、指導前の時点で既に個人差があるが、この試みからは指導者も生徒もその向上に手応えを感じた。推敲後の自己評価（感想）の多くが肯定的な内容であることから、意欲的な取組であったことが分かる。なお、推敲前と推敲後の作品の例を資料3に示す。1例のみであるが、他の生徒の学習活動においても、ほぼ同じように相互評価やそれを踏まえた推敲がなされた。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

本事例の成果として、次のような点が挙げられる。

#### ア 学び合いを通じた「書く能力」の高め合い

生徒の小論文を教師が逐一添削指導しなくても、指導方法を工夫することで、生徒は自己評価や相互評価を通して推敲の視点に気づき、学び合いを通して能力を高め合うことができる。この指導を通して、学び合いの大切さとその効果を確認できた。

#### イ 「書くこと」に対する「関心・意欲」の高まり

大学入試や就職試験の対策として、教師は、生徒に意見文や小論文を書かせ、多大な労力をかけて赤ペンで添削をすることがある。しかし、それがかえって生徒の「書くこと」への抵抗感を増幅させているかも知れない。この事例では、自己評価や相互評価を踏まえて作品を推敲するという活動が生徒には新鮮だったようで、意欲的に取り組んでいた。

#### ウ 「書く能力」の向上の実感

生徒の自己評価の記述からも、自分の文章がよりよくなることを実感できたことに手応えを感じた様子がみられた。

#### エ 「書くこと」に関する指導の改善

評論の指導は、講義形式による「読むこと」の指導に偏りがちであった。そこで指導のねらいを「書くこと」に重点化して、現代文の指導事項に沿って指導を展開することができた。

### (2) 課題

課題としては、次のようことが挙げられる。

#### ア 効果的なグループ活動の工夫

本事例の計画に当たって参考にした『図解 フィンランド・メソッド入門』の、「批判的思考力」の項には、次のような指導例が紹介されている。

完成した作文を班員それぞれが読みます。そして、それぞれが作文の「いいところ」と「悪いところ」を十個ずつ挙げるのです。班員が四人だとすると、書き手を除く三人がこの作業をしますので、「いいところ」と「悪いところ」が三十個ずつ集まります。それから、全員で話し合っ、て、「いいところ」と「悪いところ」を十個ずつにしばりこむのです。

書き手は、「悪いところ」を改善しつつ、全文を書き直します。

これで完成 — ではありません。

書き直した作文をとりの班に渡して、同じ作業をやってもらいます。つまり、とりの班の各人が、「いいところ」と「悪いところ」を十個ずつ挙げ、集まった「いいところ」と「悪いところ」を、話し合っ、て十個ずつにしばりこむ。その結果にしたがって、書き手はまた全文を書き直すのです。

これで完成の場合もありますが、他のすべての班に渡して「いいところ」と「悪いところ」を挙げてもらふこともあります。

『図解 フィンランド・メソッド入門』58ページより

しかしながら、この指導法をそのまま取り入れようとしても、生徒は互いの作品を批評し合うという活動に不慣れである。そこで、ここでは相互評価の入門編と位置付けて、次のようなアレンジをした。

- ・グループの人数を五、六人とする。
- ・「ほめてあげたい点」と「改善へのアドバイス」を、各人が一個ずつ指摘させる。
- ・生徒の作品は、名前を伏せてコピーして配付する。
- ・相互評価を付箋に書く際も、遠慮のないように匿名で記入させる。
- ・他者の指摘を見て影響されないように、記入済みの付箋は回覧終了後に貼る。
- ・推敲は一回とする。

ところで、生徒が書いた意見文や小論文について推敲の指導をする場合、添削と推敲を三回繰り返して、ようやく「概ね満足」もしくは「十分満足」の域に達するというのが、一般的な状況なのではないだろうか。その点で、フィンランド・メソッドで紹介された指導法は、「改善点」を教師が指摘するか生徒が指摘するかの違いや、「改善点」を話し合っ、て絞り込むというような違いはあるが、練り上げられるまでの推敲の過程は似ている。今回は、「十分満足できる」と判断される状況まで練り上げるには、実際にはあと数回の推敲を要した。今後は、「書く能力」の更なる向上のために、フィンランド・メソッドで紹介された指導法を参考に、効果的なグループ活動を工夫したい。また、そのために、国語の授業における生徒同士の間関係づくりを進められるように配慮したい。

#### イ 生徒の興味、関心が低い内容のテキストを扱う際の指導の工夫

本事例で扱ったテキストの内容は、生徒にとっても身近な話題に関するものであったため、自ずと生徒の関心を引き出すことができた。しかし、たとえば芸術論など、生徒が興味関心を示しにくい内容のテキストを扱う際に、指導の手法や内容をさらに工夫する必要がある。

#### 使用教科書・副教材

・『精選 現代文』東京書籍

・『サクセス小論文ノート』桐原書店

#### 参考文献

・北川達夫、フィンランド・メソッド普及会著『図解 フィンランド・メソッド入門』経済界、2005年

メディアは何を変えるのか？ — インターネットやケータイ

( ) 年 ( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )

解答1

学習活動その1

教科書 p 72 ～ p 80 を読んで、印象に残った文を抜き出す。

学習活動その2

(本文を繰り返し読み)「活動その1」で抜き出した文の中から、最も興味・関心をもった文を一つ選ぶ。

学習活動その3

その文を選んだ理由を説明する。選んだ文の内容と自分との関わりも考える。





メディアは何を変えるのか？

-----インターネットやケータイ

「自分で選んだ一文について、あなたの考えを述べなさい」(600字以内)

私がこの一文を選んだ理由は、直接話をし  
ていない以上、自分の意図や感情を正確に伝  
えることは難しいということを表している一  
文だと思ったからだ。

自分も、友人とメールをしていいる時、ある  
一文で話が噛み合えなくなってきたことがある。  
口論まで発展することは無かったが、自分  
の意図や感情が伝わらず誤解が生まれたのだ。  
そこで私は直接対面していい相手に正確な  
感情を伝えることは容易ではないと知った。

ある話で、二人の意見が少し分かれただけ  
で感情的言葉の応酬が勃発し、両者の仲が修  
復不可能となったという話がある。その二人  
は十年以上の付き合いで人生経験も豊富だっ  
た。それなのに、近くに居ても全く話そうと  
もせず、ひたすらメールで互いを攻撃し合っ  
ていたそうだった。

これと同じようなことが起こっているのが、  
インターネットでの掲示板だろう。掲示板上  
で起る一つのことについての誹謗中傷や人格  
攻撃の書き込みが飛び交っているのをよく目  
にすることができる。インターネット上では面と向か  
つて物と言わないが、「匿名」を使って自由に自  
分の思ったことを発言しているのだ。

上記の話を語った人物は、メールとは確かに  
便利なものではあるが、感情的になると危  
険なツールであると言っていた。これについ  
て、私は同意をする。そして、私はこの言葉  
と自分で選んだ一文が多少なりともリンクを  
しているのではないかと思った。

感想

題材が難しかったので書くことも苦者でしたがこれからこういう論文を書くこと  
が必要なので良い勉強になったと思う。  
それと同時に、他人からのアドバイスもたくさんもらうことができたので、どこを活かし  
どこを訂正すれば良いのかも分かったので良かった。

## 事例 2

# 「臨江之麩<sup>び</sup>」を基にした創作活動を通して、人間、社会に対する思想を的確にとらえる

### 1 育成を目指す言語能力

本単元は、古典の寓話に描かれた人間像や思想を、表現に即して的確に読み取るという言語能力を育成するために計画したものである。新学習指導要領の「古典B」の指導事項「ウ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。」を指導の中心に取り上げる。そして、「書き手の主張や文章の内容をとらえ、音読を取り入れながら読み味わっている。」「寓話の内容を押さえながら、書き手が述べようとしていることを読み取っている。」という評価規準を中心にして評価する。また、「国語総合」の「ア 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること」を参考にして設定した、「寓話の内容と自分の生活や現代の状況との共通点を考え、自分の言葉で物語を創作する」という言語活動を通して、前述した能力を育成する。

この実践は、訓詁注釈に偏りがちな古典の指導を改善し、一層古典に親しむ態度を身に付けることができるように、生徒が学習に主体的に取り組める創作活動を工夫した事例である。

### 2 学習活動の概要

(1) 単元名 名家の文章「臨江之麩<sup>び</sup>」(柳宗元)

#### (2) 単元の目標

- ①漢文の寓話を読んで、表現の意図や特色をとらえようとし、心情を豊かにし、思考力を育て、人間、社会などに対して自分なりの考えをもとめようとする。 (関心・意欲・態度)
- ②書き手の主張や文章の内容をとらえ、音読を取り入れながら読み味わう。 (読む能力)
- ③寓話の内容を押さえながら、書き手が述べようとしていることを読み取る。 (読む能力)
- ④漢文の訓詁に必要な返り点、送りがな、句読点などに関するきまりについて理解する。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

#### (3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
①漢文の寓話を読んで、表現の意図や特色をとらえようとし、心情を豊かにし、思考力を育て、人間、社会などに対して自分なりの考えをもとめようとしている。	①書き手の主張や文章の内容をとらえ、音読を取り入れながら読み味わっている。 ②寓話の内容を押さえながら、書き手が述べようとしていることを読み取っている。	①漢文の訓詁に必要な返り点、送りがな、句読点などに関するきまりについて理解している。

(4) 指導と評価の計画(5時間)

時間	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1	<b>作品の音読</b> (1)本文について、範読を聞く、斉読する、二人組になって一文ずつ交互に読み合う、指名により順番に読む。	○難読語句について説明する。	<b>読む能力①</b> <b>言語文化と国語の特質①</b> (指名読みで確認)
2 5 3	<b>本文の内容理解</b> (1)書き下し文を書く。 (2)口語訳をする。	○脚注を参考にさせる。	<b>読む能力①</b> <b>言語文化と国語の特質①</b> (ノートへの記入状況の確認)
4	<b>物語の作成(前半)</b> (1)あらすじを確認する。 <b>資料2</b> (一) (2)登場人物(動物)の実例を考えてみる。 <b>資料2</b> (二) (3)あらすじと実例を踏まえて自由に連想し、物語の状況を設定する。物語の素描を作成する。 <b>資料2</b> (三)	○復習のため、教科書、ノートを参照させる。 ○必要に応じて、「国家」などの例を挙げて示唆する。 ○机間指導をして、筆が進まない生徒に対しては助言を与えたり周囲の生徒と相談させたりする。	<b>読む能力①</b> (ワークシート <b>資料2</b> への記述の確認) <b>読む能力②</b> (ワークシート <b>資料2</b> への記述の確認)
5	<b>物語の作成(後半)</b> (1)前時の活動を元に物語を清書する。 <b>資料3</b> (2)作品を発表し、他者の発想に対する「気付き」を体験する。	○生徒の書いたものを教師が数編選び、読み上げる。	<b>読む能力②</b> (ワークシート <b>資料3</b> への記述の確認)

※「関心・意欲・態度」は単元全体を通して評価する。

3 評価の例

「寓話の内容と自分の生活や現代の状況との共通点を考え、自分の言葉で物語を創作する」という言語活動において、大半の生徒があらすじを把握し、身の回りの出来事と比較して考え、現代社会における身近な実例を挙げる事ができた。

**資料2**のワークシートで、寓話にあてはまるような人として、生徒が挙げた例

	生徒A	生徒B	生徒C
臨江之人	人間	夫	校長
麩	ハムスター	嫁	教師
犬	猫	姑	生徒

寓話を基にした新たな人物設定で「物語」を創作するという言語活動において、読み取った原典の内容を、原典とは異なる設定で書き改めることを通して内容理解の深化を図った。この学習

活動で、「十分満足できる」と判断される作品の例が資料4である。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

本事例の成果として、次のようなことが挙げられる。

#### ア 古典に親しませるための指導の改善

この実践は、「漢文の寓話を読んで、表現の意図や特色をとらえようとしたり、心情を豊かにし、思考力を育て、人間、社会などに対して自分なりの考えをもとうとしたりする態度を身に付ける」ためのものである。古典をただ単に口語訳して解釈するだけではなく、そこに込められた英知や処世訓などを自分自身のものとして体得し、生きた知恵とすることを目指している。そのために、物語を創作するという言語活動を取り入れた。その結果、資料4のような秀作が多数見られた。

#### イ 言語活動によって、生徒が能動的に学習に取り組む状況を設定できたこと

古典の授業では、生徒はもっぱら教科書を読み、教師の説明を聞き、板書を写すことに終始することが多い。本事例では、書くことに関する言語活動によって、生徒が能動的に学習に取り組む状況を設定できた。

#### ウ 多面的な評価

古典の文章を解釈することや言語事項を覚えることが苦手な場合でも、想像して書く活動には意欲的な姿勢を見せる生徒が多数見られた。その点で、これまでの指導では見えてこなかった、生徒の新たな面を評価することができた。指導の工夫次第で、古典への関心を高めることや、多面的な評価ができる。

### (2) 課題

訓詁注釈に偏りがちな古典の指導を改める必要性は、これまでも指摘されてきた。本事例は、そうした状況を改善するための試みでもあり、実践の結果、次のような課題が残った。今後の指導の改善に生かしたい。

#### ア 年間指導計画の見直し

十分に時間を確保して創作活動等に取り組ませるには、数時間を要する。そのためには、年間指導計画を見直して、単元の構成や様々な言語活動の位置付けを再構成する必要がある。

#### イ 発問やワークシートの工夫

受け身の学習姿勢になりがちな生徒に対して、豊かな発想を引き出し、主体的に学習活動に取り組ませることのできる、発問やワークシートの工夫が必要である。

#### ウ 学習形態の工夫

生徒同士の学び合いを促すために、普段の指導や創作活動にもグループ活動を取り入れるなど、指導の在り方を工夫する必要がある。

## 使用教科書

・『改訂版高等学校標準古典』第一学習社

臨江之麋

柳宗元

① 臨江之人、<sup>カリシテ</sup> 畋得<sup>②</sup>麋、<sup>ゲイラ</sup> 畜<sup>ヤシハントス</sup>之。入<sup>イルニ</sup>門、群犬垂<sup>タラシ</sup>涎、<sup>ヨタレラ</sup> 揚<sup>ゲテ</sup>尾皆来<sup>タル</sup>。其人怒<sup>リテ</sup>、<sup>③</sup>怛<sup>オソレシム</sup>之。自<sup>リ</sup>是日抱<sup>キテ</sup>就<sup>④</sup>犬、<sup>⑤</sup>習示<sup>シテ</sup>之、<sup>⑥</sup>使<sup>メ</sup>勿<sup>ナカラ</sup>動<sup>クコト</sup>、<sup>⑦</sup>稍<sup>ヤウヤク</sup>使<sup>ム</sup>与<sup>レ</sup>之戲。積<sup>ムコト</sup>久、犬皆如<sup>シ</sup>人意。麋<sup>ナレトウ</sup>麋稍<sup>ク</sup>大、忘<sup>レ</sup>己之麋也、以<sup>ツテ</sup>為<sup>シ</sup>犬良我友、<sup>⑧</sup>抵触<sup>⑨</sup>偃<sup>エン</sup>仆、<sup>⑩</sup>益<sup>ホクシテ</sup>狎<sup>⑪</sup>。犬畏<sup>レ</sup>主人、<sup>⑫</sup>与<sup>レ</sup>之俯仰甚善。然時啖<sup>⑬</sup>其舌。三年、麋出<sup>デ</sup>門外、見<sup>ニ</sup>外犬在<sup>ルコトニ</sup>道甚衆、走<sup>リテ</sup>欲<sup>ス</sup>与<sup>ニ</sup>為<sup>レ</sup>戲。外犬見<sup>テ</sup>而喜<sup>ビ</sup>且怒、共<sup>ニ</sup>殺<sup>シテ</sup>食<sup>ラヒ</sup>之。狼藉<sup>⑭</sup>道上。麋至<sup>ルマデ</sup>死<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>悟<sup>⑮</sup>。

(柳先生文集)

- ① 臨江 今の重慶市忠県。
- ② 麋麋 「麋」は、トナカイの一種で、「なれしか」という大鹿。「麋」は鹿の子。
- ③ 怛 おどして恐れさす。
- ④ 就犬 犬に近づける。
- ⑤ 習示 何度も何度も見せること。
- ⑥ 稍 少しずつ。
- ⑦ 積久 しばらくたつて。
- ⑧ 抵触偃仆 体に触れたり転げ回ったり。
- ⑨ 狎 鹿の子が犬になれ親しむ。
- ⑩ 与<sup>レ</sup>之俯仰 鹿の子に調子を合わせる。
- ⑪ 啖其舌 舌なめずりする。
- ⑫ 狼藉 狼が草を敷いて寝た後の乱雑なさま。ここは、食べかすが散乱している様子。

(書き下し文)

臨江の人、畋りして麋麋を得、之を畜はんとす。門に入るに、群犬涎を垂らし、尾を揚げて皆来たる。其の人怒りて之を怛れしむ。是れより日に抱きて犬に就き、之に習示して、動くこと勿からしめ、稍く之と戯れしむ。積むこと久しくして、犬皆人の意のごとし。

麋麋稍く大にして、己の麋なることを忘れ、以つて犬は良に我が友なりと為し、抵触偃仆して、益狎る。犬は主人を畏れ、之と俯仰して甚だ善し。然れども時に其の舌を啖ふ。

三年にして、麋門外に出で、外犬の道に在ること甚だ衆きを見、走りて与に戯れを為さんと欲す。外犬見て喜び且つ怒り、共に殺して之を食らひ道上に狼藉たり。麋は死に至るまで悟らず。

\* 「柳先生文集」 中唐の詩人・文章家である柳宗元（七七三〜八一九）の詩文を集めたもの。

## 臨江之麩

一 あらすじをまとめよう。

- ① 臨江の人が [ ] を捕まえた。
- ② それを連れて帰ると犬どもが [ ] とした。
- ③ その人は [ ] を何度も [ ] した。
- ④ 犬どもは [ ] になった。
- ⑤ [ ] は自分と [ ] が友だちであると思った。
- ⑥ [ ] は門の外に逃げ出した。そこに野犬の群れがいた。
- ⑦ [ ] は一緒に遊ぼうとして駆け寄ると、野犬にたちまち喰い殺された。

二 この寓話にあてはまるような人が、現実にはいないだろうか。自由に考えよう。

- 麩 ↓
- 臨江之人 ↓
- 群犬 ↓
- 外犬 ↓

三 二の人物設定で、自分なりの物語を創作しよう。

(1) 右のマルの中にあることばで思いついたことを、自由に書き出してみよう。

いつ

どこで

だれが  
なにが

なにを

どうして

どうなった

(2) (1)で書き出したことばをつなげて、物語を創作しよう。

## 題名 1

【例、「ああ、かんちがい」】

## (生徒の作品例)

信じるべきモノ

ある日、某地方を統治していた将軍が病気で亡くなった。その将軍は遺言を残しており、彼の息子が後を継いだ。

しかし、その息子というのがとんだうつけで、地方を統制する方法など全く知らなかった。家臣は言った。

「お父上の仕事ぶりは、我々が見てきました故、我々があなた様に助言をしてさしあげますよ。」

息子は大変喜び、父の人望に感謝さえした。けれどもこの家臣達は、彼の父の仕事は一切続けず、己の思うがままに彼を操った。当の彼は、ただただ喜び、家臣を信用しきっていた。数ヶ月経ったある日の事である。城の外へ出る事を禁じられていた彼は、庭園を歩き回っていた。すると何処からだろうか、怒った様な声が聞こえ、不安になり、急いで部屋に戻った。

「如何致しました？ そんなに息を切らして。」

「今そこで、とある噂を聞いたのだ。わしは、まつりごと政を誤ってはおらんよな？」  
家臣は大層びっくりし、しかし、冷静に言った。

「何を仰るのです。貴方の政は完璧ですよ。もっと自信を持って下さい。」  
彼はその言葉を信じ、胸を撫で下ろした。彼は自分や噂よりも、家臣を信じたのだ。

翌日、彼はこっそりと、城を抜け出した。完璧とまで言うのなら、民に崇められ褒められたいという欲が出たのだ。初めて会った男に、彼はおもむろに声をかけた。

「やあやあ、我はこの地の統主、かささぎいくとも笠鷲幾伴であるぞ。ぬし、わしに会えた事を光栄に思うが良い。さあ我を——」

「笠鷲幾伴だど!? 皆、我らの敵が来たぞ！」  
話が終わらないうちに男が叫び、人々が集まった。敵とは一体誰の事だったのか。何故民は農具等を向けるのか。彼は答えを聞けぬまま、深い深い闇へと、痛みと共に堕ちて逝くのだ。た……。

もし彼が自分を信じていれば、自分で統治しようとさえしていれば。事の全てを聞いた彼の母は、ひたすら嘆き、涙を涸らし、その命さえも枯らしてしまったという。

誰が一番悪いの？ 家臣？ お父さん？ 息子？ 民？ お母さん？

### 事例 3

## 「八代集」から兼好法師好みの和歌を見つける

### 1 育成を目指す言語能力

文体や表現技法等の特徴に注意しながら、書き手の主張や文章の内容をとらえるという言語能力を育成する。新学習指導要領の「国語総合」の指導事項「C 読むこと」の「エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。」を指導の中心に取り上げ、「文体や表現技法等の特徴に注意しながら、書き手の主張や文章の内容をとらえている。」という評価規準を中心にして評価する。また、言語活動例の「エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評したりする文章を書いたりすること。」を参考にして設定した、「『八代集』から兼好法師好みの和歌を見つける」という言語活動を通して、前述した能力を育成する。

この実践は、訓詁注釈に偏りがちな古典の指導を改善し、我が国の伝統的な言語文化に対する生徒の興味・関心を深めるための指導の工夫として、読み比べをする言語活動を取り入れたものである。

### 2 学習活動の概要

(1) 単元名 随筆と日記 「徒然草」－「花は盛りに」－（兼好法師）

#### (2) 単元の目標

- ① 様々な文章を読んで、表現の意図や特色をとらえようとしたり、心情を豊かにし、思考力を育て、人間、自然などに対して自分なりの考えをもとうとしたりする。 （関心・意欲・態度）
- ② 文体や表現技法等の特徴に注意しながら、書き手の主張や文章の内容をとらえる。（読む能力）
- ③ 「徒然草」と和歌集を読み比べ、書き手の主張や文章の内容をとらえ、共感・疑問・思索などを通して思考力を高め、自分なりの考えを深める。 （読む能力）
- ④ 主な助詞、助動詞等の意味、対句的表現、反語表現、係り結びの用法について理解する。  
（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

#### (3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
① 様々な文章を読んで、表現の意図や特色をとらえようとしたり、心情を豊かにし、思考力を育て、人間、自然などに対して自分なりの考えをもとうとしたりしている。	① 文体や表現技法等の特徴に注意しながら、書き手の主張や文章の内容をとらえている。 ② 「徒然草」と和歌集を読み比べ、書き手の主張や文章の内容をとらえ、共感・疑問・思索などを通して思考力を高め、自分なりの考えを深めている。	① 主な助詞、助動詞等の意味、対句的表現、反語表現、係り結びの用法について理解している。

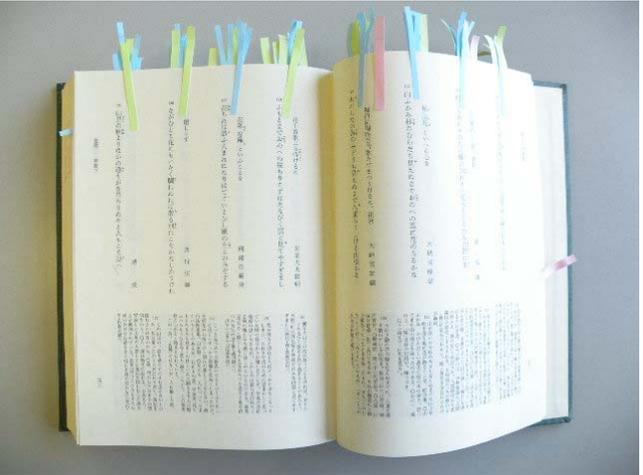
(4) 指導と評価の計画(5時間)

時間	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1 5 2	<p>「花は盛りに」の本文の解釈</p> <p>(1) 本文を読み、主な助詞、助動詞等、対句的表現、反語表現、係り結びを押さえて内容を読み取る。</p>	<p>○次の重要語を指導する。</p> <p>助詞:「かは」「こそ」「もがな」、助動詞「ぬ・べき」「に・し」、形容詞:「隈なし」「をかし」「またなし」、形容動詞:「あはれなり」「かたくななり」「あだなり」、動詞:「まかる」「かこつ」「眺む」、名詞:「望月」</p>	<p>読む能力①</p> <p>言語文化と国語の特質①</p> <p>(ノートへの記述の確認)</p>
3 4	<p>「八代集」を読んで兼好法師好みの和歌を探す(グループ活動)</p> <p>(1) 八つのグループで「八代集」を一作品ずつ分担し、それぞれの歌集から、花を詠んだ和歌を選ぶ。</p> <p>(2) (1)で選んだ和歌を、兼好法師の美意識に「合致する」、「合致しない」、「どちらでもない」の三種類に分類して、本に付箋を貼る。<u>資料1</u></p> <p>(3) 「合致する」として選んだ和歌から、兼好法師の美意識に最も近い和歌を話し合いで選ぶ。</p> <p>(4) (3)で選んだ和歌の、解釈と修辭の解説文、和歌を選んだ理由をワークシートに書く。</p>	<p>○一グループ五人の編成とする。</p> <p>○時間と作業量の都合で、「春」の部だけから選ばせる。</p> <p>○付箋の色分けの例</p> <p>「合致する」(水色)</p> <p>「合致しない」(黄緑)</p> <p>「どちらでもない」(ピンク)</p> <p>○ワークシートに「おすすめ之歌」として記入させる。</p>	<p>読む能力②</p> <p>言語文化と国語の特質①</p> <p>(ワークシート<u>資料2</u>への記述の確認)</p>
5	<p>「八代集」の各歌集から選んだ和歌をグループごとに発表する</p> <p>(1) 前時の(4)の内容について、グループごとに発表する。聞き手は、発表を聞いて、感想などをワークシートに書く。<u>資料3</u></p> <p>(2) 学習活動を振り返り、感想を書く。<u>資料3</u></p>	<p>○他の班の発表を聞く際には、新たな気付きや疑問点などがないかどうか留意させる。</p>	<p>読む能力②</p> <p>言語文化と国語の特質①</p> <p>(発表及びワークシート<u>資料3</u>への記述の確認)</p>

※「関心・意欲・態度」は単元全体を通して評価する。



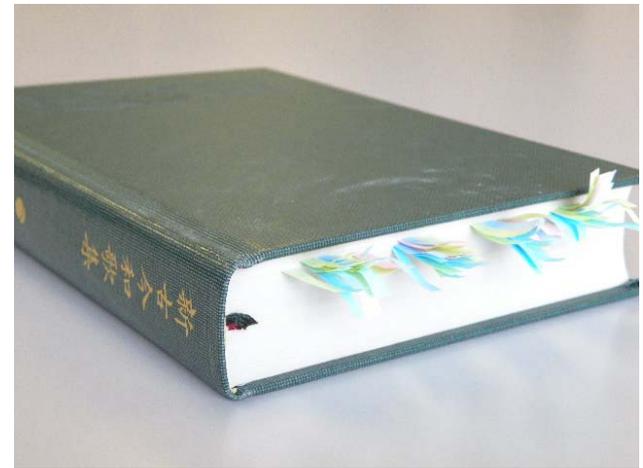
花を詠んだ和歌を選んでいるところ



「春」の部に貼った付箋  
（「新古今和歌集」の例）



各歌集から選んだ和歌を黒板に書き出しているところ



選んだ和歌についての解釈や修辞を説明しているところ

### 3 評価の例

「八代集」から「兼好法師好みの和歌」として各グループが選んだ和歌は、次のとおりである。

和歌集名	古今集	後撰集	拾遺集	後拾遺集	金葉集	詞歌集	千載集	新古今集
「兼好法師好みの和歌」として生徒が選んだ和歌	心地損なひて、患ひける時に、風に当らじとて、下し込めてのみ侍ける間に、折れる桜の散り方になれりけるを見て、よめる 藤原因香朝臣 たれこめてはるのゆくも知らぬまにまちし桜もうつろひにけり	桜の花の散るを見て みつね 何時の間に散りはてぬ 覧桜花おもかげにのみ色を見せつゝ	題知らずよみ人知らず 春霞立ち別れゆく山道は花こそ幣と散りまがひけれ	(4班の生徒が「満開でない歌はあったが、兼好が好む歌がなかった」として挙げた和歌) 高砂の尾上の桜咲きにけり外山の霞たゝずもあらなん 大江匡房朝臣	落花満庭といへることをよめる 左兵衛督実能 けさ見ればよはの嵐に散りはてて庭こそ花のさかりなりけれ	住み荒らしたる家の庭に、桜花の閑なく散り積りて侍けるを見て詠める 源俊頼朝臣 掃く人もなきふるさとの庭の面は花散りてこそみるべかりけれ	池水にみぎはのさくらちりしきて波の花こそさかりなりけれ 後白河院	花見侍ける人にさそはれてよみ侍ける 康資王母 山桜花のした風ふきにけり木のもとごとの雪のむらぎえ 堀河院御時百首歌たてまつりけるに、花歌 大納言師頼 木のしたの苔のみどりも見えぬまで八重ちりしける山桜かな

いずれの和歌集からも、兼好の美意識と同じような視点から詠まれた和歌が選ばれている。「後拾遺集」だけ、条件に見合う和歌がなかった旨の但し書きとともに和歌を紹介しているが、それでも満開をよしとするものではない和歌を選んでいる。

また、「解釈・修辞」、「この歌を選んだ理由」の詳細は資料2のとおりである。「修辞」の説明については、概略のみの記載や未記入のものも見られるが、指導計画では、「随筆と日記」が第2学期、「和歌と俳諧」は第3学期であるので、この段階としては、学習に使用した文献を参考に「解釈」が書かれていればよしとする。「この歌を選んだ理由」には、いずれの班も自分たちなりに考えたことを書いている。内容として「十分満足できる」と判断される状況である。

第5時のグループ発表の際に使用した、聞き取り用のワークシートが資料3である。一例のみ示したが、他の生徒も同様に、各班の発表を聞いて、和歌の感想を記入している。

なお、資料3のワークシートに、授業の感想として生徒が書いた文を、次に紹介する。

### 発表学習後の感想

\* 下線は授業者が付す。記入の内容を次のように分類して、下線の種類で書き分けた。

- \_\_\_\_\_ 兼好の美意識と同じ内容の和歌が意外と多かったこと
- \_\_\_\_\_ 兼好の美意識に対する理解の深まり
- 学習に対する楽しさ
- ===== 学習の大変さ
- グループ学習の効果
- 学習意欲の高まり
- ~~~~~ 和歌の内容や修辞法への気付き
- 学習の有用感
- ~~~~~ 自然に対する見方の深まり

- 散った桜を美しいとする歌が意外にもたくさんあり、驚いた。クラスみんなで協力して学ぶところがよかった。新鮮な勉強法で楽しかった。
- どの和歌集にも、兼好の美意識にそった歌が意外とたくさんあることが分かりました。庭とか水面とか、いろいろな場所から見ていてすごくおもしろい歌がたくさんありました。
- 初めは満開の桜の花の和歌が多いと思っていたけれど、実際は満開でないほうの歌が多くて驚いた。兼好と同じように考える人も多いとわかった。私も春になったら、このような和歌と同じ考えをもって桜をみたいと思った。
- 解説などを見ないと、作者がどのような意味を込めて詠んだのかわからない歌が多く、とても大変でした。兼好と同じような考えの人も思っていたよりもたくさんいることがわかりました。
- 「拾遺集」からグループで和歌を探して選ぶことで、桜だけでもたくさんの歌があることに気づいた。たくさんの和歌に目を通すことによって、兼好の美意識への理解が深まったと思う。
- 兼好の美意識に最も合っているものを一首選ぶのが難しかった。実際に調べて、兼好の美意識について前よりは理解できたと思う。
- 一つのテーマを決めて、たくさんの歌の中から選ぶのはとても楽しかったです。他の人の好きそうな歌も、また探してみたいと思いました。グループで協力してやるのもおもしろかったです。「花は盛りに」を学習している時は、兼好の気持ちを理解できなかったけど、調べていくうちに、こういうのもありかなと思いました。
- 兼好の観察力の高さはさすがだと思った。散った桜ほど美しいという兼好の美意識は、歌を知れば知るほど出てくると思った。
- 和歌集を調べるのは意外とおもしろかった。自分たちで意味を調べて、詠み手の意図をみんなで考えるのは勉強になったし、楽しかった。
- 解説などを見ないと、作者がどのような意味を込めて詠んだのかわからない歌が多く、とても大変でした。兼好と同じような考えの人も思っていたよりもたくさんいることがわかりました。
- 6班が「詩花集」から選んだ歌は、他と違う視点で詠まれていて面白かった。案外、枕詞を使っている歌が少なかった。

- ・桜の歌は意外に多くて、どれが兼好の美意識に合っている歌なのかを探す作業が大変だった。他の班が選んだ歌は、何かに見立てて歌っている歌が多く、口語訳を聞くと納得できるものが多く、おもしろい歌が多かった。
- ・一つの歌にさまざまな表現技法が使われていた。ほとんどの歌は、桜、または他の何かを満開の桜に見立てており、一つ一つの語句を注意深く、また作者になりきりながら意味を取らないといけないため大変だった。
- ・現代の詩や俳句とは違う表現方法なども知ることができてよかったです。
- ・調べるのは難しかったけど、たくさんの和歌が読めて楽しかった。和歌のつくりの難しさがよく分かり、昔の人はすごいと思った。
- ・一字一句訳するのはとても苦手なので大変でした。調べてみると、一首一首にそれぞれのおもしろさがあり、楽しかったです。花びらが湖の水面に落ちたり、知らぬ間に散ったり……、もっと調べておもしろい歌を探したいと思いました。
- ・兼好の美意識に合った歌を探すのは難しかったけど、判定するのが少しおもしろかった。別の人の美意識に合わせて探すのもやってみたい。
- ・調べて発表する授業もたまにはよいと思った。またやってみたいです。
- ・たくさんの和歌の中から、一つのものを探すのはすごく難しかった。でも、意味を理解したり、条件に合っているかを判断するのは楽しかった。考える力が少しついた気もした。

これらの記述から学習の成果が読み取れる。学習の大変さについて言及した生徒も、拒否反応を示したわけではなく、大変さの反面としての成果について述べている。生徒は、現時点での能力に比して高めに設定された学習課題に対して、困難さを感じつつも仲間と協力して取り組んだことで、達成感を感じていることがわかる。このことから、この実践によって、言語活動を通して指導のねらいを達成できたといえよう。指導者として手応えのある実践であった。

#### 4 成果と課題

##### (1) 成果

本事例の成果として、次のようなことが挙げられる。

##### ア 古典の学習に対する「関心・意欲」の高まり

学習後の「関心・意欲」の高まりについても、「もっと調べたい」、「またやってみたい」というような生徒の感想が示すとおりである。「私も春になったら、このような和歌と同じ考えをもって桜をみたい」という記述には、自然に対する見方の変容が如実に表れている。

##### イ グループ活動での学び合いによる、「読む能力」の高め合い

グループ学習の成果については、複数の生徒の感想が示すとおりである。グループ活動を取り入れたことで、一人では気付かないことでも、グループ内での話し合いを通して気付かせることができた。

##### ウ 読みの視点の明確化による、「読む能力」や思考力が身に付いたという実感

「兼好の美意識に合う和歌を選ぶ」という視点を一つ与えたことで、和歌集を読む目的が明確になり、生徒は学習活動に主体的かつ活発に取り組むことができた。

##### エ 読み比べによる日本の美意識に対する理解の深まり

「花は盛りに」と「八代集」との読み比べをさせたことで、日本人の美意識に対する理解が深まった。「花は盛りに」だけを讀んだ場合は、満開ではない桜をよしとする兼好の美意識を少数派だと思ふ生徒は多かった。「兼好の美意識にそった歌が意外とたくさんある」と

このような気づきが複数あったことが示すように、読み比べたことによる理解が深まった。

このように、心情を豊かにし、思考力を育て、人間、自然などに対して自分なりの考えをもたせることなどの、単元の指導目標が十分に達成できた。

## (2) 課題

課題として、次のようなことが挙げられる。

### ア 短時間で実施可能で、なおかつ効果的な言語活動の工夫

訓詁注釈に偏りがちな古典の指導を改めるために、言語活動は当然取り入れなければならない。しかし、限られた時間の中で3領域1事項を扱う「国語総合」の指導の中では、長時間を要する言語活動を取り入れる時間的なゆとりは少ない。短時間で取り組むことができ、なおかつ効果的な指導を工夫する必要がある。本事例は「国語総合」での試みであったが、「古典」でも指導が可能な指導法である。むしろ、「国語総合」に比べて指導の時間を確保しやすい「古典」での実践において可能性の広がる指導である。

### イ 図書資料の確保

参考文献の「新日本古典文学大系」は、学校図書館のものを使用した。しかし、図書をグループで1冊しか閲覧できないことや、複数のクラスで同時展開する際に、付箋を貼ったままにしておくことができない不都合が生じるなど、図書資料の確保に問題があった。ただし、これは、近隣の県立高校や公立図書館との連携を図れば解決できる問題でもあるので、今後、同様の指導を展開する際に、計画的に準備することで対応は可能である。

## 使用教科書

・『探求国語総合（古典編）改訂版』桐原書店

## 参考文献

・新日本古典文学大系 岩波書店

- 5 古今和歌集（小島憲之、新井栄蔵 校注）1989年
- 6 後撰和歌集（片桐洋一 校注）1990年
- 7 拾遺和歌集（小町谷照彦 校注）1990年
- 8 後拾遺和歌集（久保田淳、平田喜信 校注）1994年
- 9 金葉和歌集 詞花和歌集（川村晃生、柏木由夫、工藤重矩 校注）1989年
- 10 千載和歌集（片野達郎、松野陽一 校注）1993年
- 11 新古今和歌集（田中裕、赤瀬信吾 校注）1992年

「八代集」から兼好法師好みの和歌を見つけよう

1年組 / 班

古今和歌

集  
メンバー

桜の花の歌 41首

- ・桜が満開 (17) 首
- ・満開でない (14) 首
- ・どちらでもない (20) 首

おすすめの歌 (80)

心地損なひて、事心ひけり時に、風に当らじとて、下し込めての叶侍けし間に、折れし桜の散り方になれりけるを見て、よめよ。 藤原因香朝臣  
たれこめてはるのゆくふも知らぬまにまちし桜もうつろひにけり

解釈・修辞

藤原因香朝臣が下してわが身を籠らせて、春の進行の具合を知らないあいだに、侍つていた桜も土をこぼしてしまつた。

この歌を選んだ理由

本文にのつてた歌だから。  
全く桜を見ないのに、桜のこともよんぶりよとニろがすこい。  
古歌によると花が衰えるという比喩のかたに、春の逝くこと、人の世の定めを見据えているのだという無常観をよんだものらしいから、兼好の美意識に合っている。

「八代集」から兼好法師好みの和歌を見つけよう

1年組 2班

後撰

集  
メンバー

桜の花の歌 七十八首

- ・桜が満開 (15) 首
- ・満開でない (22) 首
- ・どちらでもない (39) 首

おすすめの歌

桜の花の散るを見て  
いつの間にか散り果ててしまつたのだから、桜は、面影としてだけ満開時の美しさを我々に見せ続けているけれど。  
何時の間に散り果てぬ、桜花おもかげにの叶色を見せつ、みつね

解釈・修辞

いつの間にか散り果ててしまつたのだから、桜は、面影としてだけ満開時の美しさを我々に見せ続けているけれど。

この歌を選んだ理由

この歌は、昔つてしまつた花を見て、満開の桜をイメージしているところが兼好の美意識に合致しているから。

「八代集」から兼好法師好みの和歌を見つけよう

1年組 3班

拾遺

集

メンバー

桜の花の歌 32首

- ・桜が満開 (12)首
- ・満開でない (12)首
- ・どちらでもない (8)首

おすすめの歌 (74)

祝詞

春霞立ち別れゆく山道は花こそ幣と散りまがひけれ

解釈・修辞

し春霞が立つ中、春が別れ去っていく山道には、  
 花がまさしく幣となつて散り、乱れていくことだ。  
 ↓ 春霞「立ち別れゆく」の祝詞 擬人化  
 ・散る花を幣に見立てたもの

この歌を選んだ理由

霞とともに春が過ぎ去っていく中で、

花が散り乱れるところを美しいとした

無常観が兼好の美意識に合っていると思ったから。

幣とは...麻や木綿または紙などをつくり、  
 神に祈るときに供え、またはこまげ持つもの。

「八代集」から兼好法師好みの和歌を見つけよう

1年組 4班

後拾遺

集

メンバー

桜の花の歌六十一首

- ・桜が満開 (二十二)首
- ・満開でない (十一)首
- ・どちらでもない (二十八)首

22 / 33 / 66

満開でない歌ばかりに、兼好が好む歌ばかり

おすすめの歌

120 高砂の尾上の桜咲きにけり外山霞たすもあらなん  
 大江匠房朝臣

解釈・修辞

高砂の高砂の桜は咲いたことだなあ。手ウソの人里近い山々の  
 霞は立たないでほらむかだ。

この歌を選んだ理由

兼好ならば霞が立っていても、後ろの桜を想像するくべ  
 良いとするべ、この歌だと桜が見たいから霞が立つのは  
 やめてほしいとしていて兼好の考えと逆だから。







## おわりに

各事例の成果や課題から、次のような指導が授業改善の方策として有効であったことが分かる。生徒の実態に合わせて、各事例をアレンジしたり考え方を参考にしたりして御活用いただければ幸いです。

### 1 生徒同士が「学び合い」を通して能力を高め合う

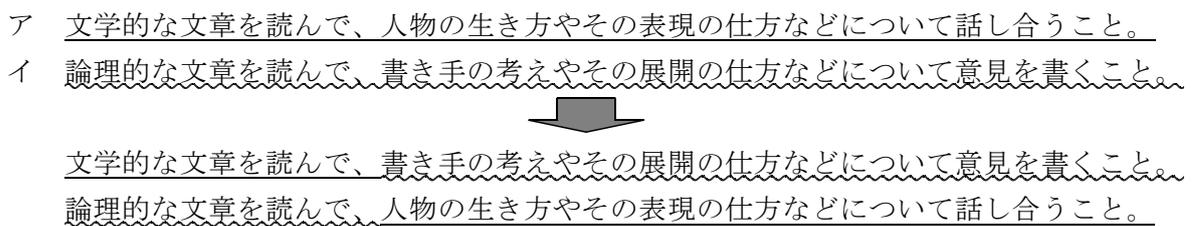
教師は教えるべきことは教えなければならない。しかし、情報を一方的に与えただけでは生徒の生きた力にならないこともある。生徒同士で教え合ったり説明し合ったりすると、「分からない」ことが「何となく分かる」ようになったり、「よく分かる」ようになったりして、理解が深まることもある。教え過ぎは、時に生徒の受け身の学習態度を助長する弊害もある。主体的な学習態度の育成のために、また「腑に落ちた」理解や、人に説明できるレベルでの理解をさせるためにも、生徒同士が学び合う場を効果的に指導の中に取り入れたい。**事例1**では小論文の相互評価に、また、**事例3**では調べ学習に、それぞれグループ学習を取り入れ、「学び合い」を通して指導の成果を上げた。

ただし、指導者も生徒もグループ学習に不慣れな状況で、ある日突然指導法を変更しても意図どおりに指導が展開しないこともあろう。生徒のコミュニケーション能力が十分に育成されていない場合はなおさらである。日頃の指導にペア学習を取り入れたり、ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンター等の指導法を援用したりして、学習集団として有効に機能する、生徒の人間関係づくりに努めておくことも大切である。

### 2 当該科目の言語活動例だけでなく、他の科目の言語活動例も取り入れる

学習指導要領に示された言語活動例は、あくまでも例である。したがって、例えば「国語総合」の指導であっても、「古典B」の言語活動例を参考にして取り入れてよい。その逆もまた然りである。実際に**事例2**は、「古典B」を想定した指導事例であるが、「国語総合」の言語活動例を参考にしたもののである。

また、次のように、二つの言語活動例の部分を組み合わせることで活動を再構成して実践してもよい。



### 3 学習のねらいを具体的に示す

生徒にとって、国語は勉強の仕方がよく分からない教科の一つになっている。そのような現状を改善するためには、学び甲斐のある教材を提示するとともに、学習のねらいを具体的に指導して、能力の向上の実感を伴う指導をすることが大切である。

**事例1**では小論文の相互評価に、「ほめてあげたい点」と「改善へのアドバイス」という二つの観点を示して、評価しながら読ませた。**事例3**では、兼好法師好みの和歌を「八代集」の「春」の部から探すという活動にポイントを絞って、学習に取り組みさせた。生徒は割り当てられた和歌集を、「兼好好みであるか否か」という判断基準に従って、一首一首を評価しながら読んだ。これらの評

価値読みは、PISA調査からその必要性が指摘されるクリティカル・リーディングの方法の一つでもあり、日本の児童生徒に求められている読む能力の一つでもある。

#### 4 自己評価や相互評価を学習活動に取り入れて、評価能力を育成する

自己評価や相互評価を文章の推敲に効果的に生かすために、評価能力の育成を視野に入れた指導を日頃から心がけることが大切である。そのために、曖昧な指摘や指摘漏れができるだけないように指導することや、アドバイスをもらう立場を考えて、どのようなアドバイスをもらえば推敲に生かしやすいかを考えさせることも必要である。

**事例1**のような実践を今後の指導に生かす際には、生徒の学習状況に応じて、次のような点について留意するとよいだろう。

- ①「よい点」「改善点」を指摘させる際に、「どこが」、「どのように」なのか分かるように、具体的に書くように指導する。
- ②指導事項に沿った評価のポイントを具体的に示して、それに従って評価させる。評価項目をチェックリストとして配布して評価させる。

#### 5 読み比べの可能性を広げ、教材を発掘する

従来、読み比べの指導に使用された教材の多くは、二次的に創作された作品と、原典・原作を比べるという方法が一般に知られたものであった。しかし、視点の当て方次第では、教材開発の余地が大いに残されている。

**事例3**では、「徒然草」に対して「八代集」を読み比べ教材として用い、兼好好みの和歌を「春」の部から見つけさせた。その他に、「春」以外の部から探す方法や、「月」や「雪」について探すというような方法も考えられる。日本人の美意識について学ぶ方法としても応用できそうである。

#### 6 古典を現代に通じるものとして読ませ、古典を学ぶ意義を実感させる

古典を読む能力を養うことは、生徒の「ものの見方、感じ方、考え方を広くすること」や、古典に親しんで人生を豊かにする態度を育成することにつながる。そのような古典を学ぶ意義を生徒に実感させるために、古典と現代との接点や共通点について、認識させることが必要である。

**事例2**では、漢文の寓話の内容と自分の生活や現代の状況との共通点を考え、自分の言葉で物語を創作するという学習活動によって、古典を現代に通じるものとしてとらえさせている。

#### 7 学校図書館や図書資料を活用する

学習の場は通常の教室に限らず、学校図書館を活用することも大切である。学校図書館の図書資料も学習活動に大いに取り入れたい。

**事例3**では、「国語総合」の随筆の学習に「八代集」を取り入れ、兼好法師好みの和歌を探すという目的を示して、それを調べるために図書を活用した。このように、図書を読むためだけでなく、調べ学習のためにも活用することも大切である。なお、近隣の県立高校や公立図書館との連携を計画的に図り、十分な冊数を準備しておけば、学習活動をより効果的に展開することができよう。

高等学校国語科の学習指導要領に示された言語活動例の新旧対照表

\* 下線を付した部分が変更点

	平成11年告示の学習指導要領（平成15年～年次進行で実施）		平成21年告示の学習指導要領（平成25年～年次進行で実施）
国語総合	<p><b>話すこと・聞くこと</b>                      (ア) 話題を選んで、スピーチや説明などを行うこと。                      (イ) 情報を収集し活用して、報告や発表などを行うこと。                      (ウ) 課題について調べたり考えたりしたことを基にして、話し合いや討論などを行うこと。</p> <p><b>書くこと</b>                      (ア) 題材を選んで考えをまとめ、書く順序を工夫して説明や意見などを書くこと。                      (イ) 相手や目的に応じて適切な語句を用い、手紙や通知などを書くこと。                      (ウ) 本を読んでその紹介を書いたり、課題について収集した情報を整理して記録や報告などを書いたりすること。</p> <p><b>読むこと</b>                      (ア) 文章に表れたものの見方や考え方などを読み取り、それらについて話し合うこと。                      (イ) 考えを広げるため、様々な古典や現代の文章を読み比べること。                      (ウ) 課題に応じて必要な情報を読み取り、まとめて発表すること。</p>	国語総合	<p><b>A 話すこと・聞くこと</b>                      ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、<u>資料に基づいて説明したりすること。</u>                      イ <u>調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。</u>                      ウ <u>反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話し合いや討論などを行うこと。</u></p> <p><b>B 書くこと</b>                      ア <u>情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること。</u>                      イ <u>出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。</u>                      ウ 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと。</p> <p><b>C 読むこと</b>                      ア <u>文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。</u>                      イ <u>文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。</u>                      ウ <u>現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えをもって話し合うこと。</u>                      エ <u>様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。</u></p>
国語表現Ⅰ Ⅱ	ア 自分の考えを明確にして、スピーチ、発表、討論などを行うこと。 イ 観察したことや調査したことを記録したり、まとめて報告したりすること。 ウ 相手や目的に応じて、案内、紹介、連絡などのための話をしたり文章を書いたりすること。 エ 身近にある様々な表現を集めてその効果などについて考えたり、生徒の表現活動について自己評価や相互評価を行ったりすること。	国語表現	ア <u>様々な考え方ができる事柄について、幅広い情報を基に自分の考えをまとめ、発表したり討論したりすること。</u> イ <u>詩歌をつくったり小説などを書いたり、鑑賞したことをまとめたりすること。</u> ウ <u>関心をもった事柄について調査したことを整理して、解説や論文などにまとめること。</u> エ 相手や目的に応じて、紹介、連絡、 <u>依頼</u> などのための話をしたり文章を書いたりすること。 オ <u>話題や題材などについて調べてまとめたことや考えたことを伝えるための資料を、図表や画像なども用いて編集すること。</u>

	平成11年告示の学習指導要領（平成15年～年次進行で実施）		平成21年告示の学習指導要領（平成25年～年次進行で実施）
		現代文 A	<p>ア <u>文章の調子などを味わいながら音読や朗読をしたり、印象に残った内容や場面について文章中の表現を根拠にして説明したりすること。</u></p> <p>イ <u>外国の文化との関係なども視野に入れて、文章の内容や表現の特色を調べ、発表したり論文にまとめたりすること。</u></p> <p>ウ <u>図書館を利用して同じ作者や同じテーマの文章を読み比べ、それについて話し合ったり批評したりすること。</u></p>
現代文	<p>ア 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。</p> <p>イ 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合うこと。</p> <p>ウ 文章の理解を深め、興味・関心を広げるために、関連する文章を読んだり創作的な活動を行ったりすること。</p> <p>エ 自分で設定した課題を探求し、その成果を発表したり報告書などにまとめたりすること。</p>	現代文 B	<p>ア 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合うこと。</p> <p>イ 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。</p> <p>ウ <u>伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色をとらえて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりすること。</u></p> <p>エ <u>文章を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりすること。</u></p>
古典講読	<p>ア 古文や漢文の調子などを味わいながら、音読、朗読をすること。</p> <p>イ 古典に表れた思想や感情などについて、感じたことや考えたことを文章にまとめたり発表したりすること。</p> <p>ウ 古典を読んで、関連する文章や作品を調べたり読み比べたりすること。</p>	古典 A	<p>ア 古文や漢文の調子などを味わいながら音読、朗読、<u>暗唱</u>をすること。</p> <p>イ <u>日常の言語生活の中から我が国の伝統と文化に関連する表現を集め、その意味や特色、由来などについて調べたことを報告すること。</u></p> <p>ウ <u>図書館を利用して古典などを読み比べ、そこに描かれた人物、情景、心情などについて、感じたことや考えたことを文章にまとめたり話し合ったりすること。</u></p>
古典	<p>ア 古文や漢文の調子などを味わいながら、音読、朗読、暗唱をすること。</p> <p>イ 国語の変遷などについて関心を深めるため、辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較対照すること。</p> <p>ウ 古典に表れた思想や感情の特徴、表現上の特色などについて話し合うこと。</p> <p>エ 古典を読んで関心をもったことなどについて調べ、文章にまとめること。</p>	古典 B	<p>ア 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告すること。</p> <p>イ <u>同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明すること。</u></p> <p>ウ <u>古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合うこと。</u></p> <p>エ <u>古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりすること。</u></p>

高等学校における教科指導の充実  
国 語 科  
新学習指導要領への対応－言語活動の充実（1）－

発 行 平成22年3月  
栃木県総合教育センター 研究調査部  
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070  
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303  
URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>